

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



# ウィメンズブックス

New27号 2007年11月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

## 目次

- 巻頭言 「レインボー家族」の人々ーいま、スウェーデンでおこっていること レグランド 塚口 淑子 ..... (1)
- 最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています ..... (2)
- ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です ..... (14)
- HOT・FILE ..... (14)
- 編集長の著者インタビュー 『農家女性の社会学〜農の元気は女から』の著者 靄 理恵子さんに聞く ..... (15)
- ウィメンズブックスストア TOP5 (8・9・10月) ..... (16)
- Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです ..... (16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

## 巻頭言

### 「レインボー家族」の人々ーいま、スウェーデンでおこっていること

ノルディック出版 代表 レグランド 塚口 淑子

今年の夏も、ストックホルムでは恒例の、プライド・フェスティバルが開催された。この祭りは、異性愛が規範である社会で、オルタナティブな生き方をするホモやレズたちが、その存在を集団で提示する年一回のイベントである。今年、このパレードが始まって以来6年目にあたるが、参加者は5万人で、これまでの最高記録となった。パレードを全部見るには4時間近くかかるほどの人数である。

また、それを路上で見物する「見るアホウ」の方は、その10倍の50万人近くであったとメディアは伝えている。衛星都市を含むストックホルムの人口の3分の1が、このパレードをみた計算になる。

いったいに、ひかえめでシャイなスウェーデン人が、このときばかりはありとあらゆる衣装を身につけ、がんがんと鳴り響くロックにあわせて町を練りあるく。ジムで鍛えた筋肉美を誇る、半裸というより全裸といえそうな人もいる。「異質」であることをおおびらにできるこの日は、同性同士が抱き合ってキスをしていても誰も目くじらをたてない。とにかく、5万人の人たちがかもし出すエネルギーは強い説得力となって見るものに伝わってくる。

毎年、カミングアウトした警官男女の集団はじめ、その他の職業グループ、政治団体などなど、多種多様のグループが、プラカードなどを掲げて行進する。

なかでも印象的なのは、家族内にホモやレズなどの指向者がいる人たちのグループである。寄り添って歩く母娘らしい女性たちの側を、「私は誇りたかい叔父」と書かれた手製のプラカードなどをもって胸をはって歩く、ごく普通の市民が毎年大勢いる。家族内の「異端者」を受け入れるだけではなく、それを世間に向かって公表する人たちの行進である。究極の家族愛の表現だと思った。

また、今年、特に目立ったのは、ベビーカーや、子ども

の手をひいて参加するレズ・ホモ同士の家族、いわゆる「レインボー家族」の集団であった。スウェーデンではつい最近、異性カップルは医療保険(つまり無料)で出来る人工授精が、同性同士にも可能となったせいもあるかもしれない。同性と異性を区別せず、カップルを平等に扱う機会均等を約束する法の制定である。また、同性同士にも適用できるよう現行の婚姻法が改正される日も近い。

このグループの中に、5〜6歳くらいの子どもたちが数人をつなぎ、「私たちはレインボー家族の子どもたち!」と無邪気に叫んでいるのを見かけた。女性か、男性かの同性同士で子どもをもつという、従来からの「常識」では考えられない、新しい家族の形が着実に育っているのを、またのあたりにした思いであった。のびのびと幸せそうな子どもたちを見て、あまり周りの無理解にあうこともなく元気に育ってほしいと心から願った。

それにしてもレズやホモたちの行進が、どうして50万人もの人たちの関心を惹くのであろうか。私には、スウェーデン社会が彼らの存在を認め、ひとつのライフスタイルとして受け入れるまでに成熟しつつあるからだと思える。

考えてみれば、離婚、再婚、非婚同居カップルが増えることにより、いまではシングルペアレントや、血縁関係のない親子、苗字が2つ以上ある家族など、従来からの核家族同様、家族の形として定着している。離婚した両親の家族を、1週間ごとに行き来する子どもは、家族を2つもっているといえるだろう。両親ともが再婚などをしているれば、親は4人いることになる。そして、現在、同性両親が定着しつつある。スウェーデンでの家族の多様化は止まるところをしないようだ。(www.nordic-shuppan.com)

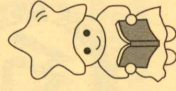


## 最新刊情報

フェミニズム・女性学 …… (2)  
 労働・仕事 …… (3)  
 子育て・教育 …… (4)  
 こころ・癒し …… (5)  
 からだ …… (6)  
 法律・政治・政策 …… (7)

自伝・評伝 …… (7)  
 文学・エッセイ・芸術 …… (8)  
 セクシュアリティ …… (10)  
 家庭・家族・衣食住 …… (11)  
 セクハラ・暴力 …… (11)  
 資料・雑誌 …… (12)

メディア …… (12)  
 絵本・子ども …… (12)  
 平和・開発・エコロジー …… (12)  
 女性史・歴史 …… (13)  
 高齢・福祉 …… (13)



## 〔フェミニズム・女性学〕

## 雇用・社会保障とジェンダー ジェンダー法・政策研究叢書 第9巻



高さやか、田中重人/編  
 東北大学出版会 2007年5月 2310円  
 「ジェンダー法・政策研究叢書」第9巻のテーマは雇用、社会保障に関する法、法政策。第1部「日本の現状と課題」、第2部「平等への多様なアプローチ」、第3部「諸外国における雇用政策」、第4部「諸外国における社会保障政策」。間接差別、セクシュアルハラスメント、同一価値労働同一賃金など、現在直面する問題を第一線の論者が論じている。

## ジェンダーで学ぶ宗教学

田中雅一、川橋範子/編 世界思想社 2007年10月 1995円  
 従来の宗教は、性差別的構造のもとに成り立っており、かつ、宗教学とジェンダー研究は“気まづい関係”にあるという。宗教学の掲げる「客観性、中立性」を検証し、ジェンダーの視点から再構築しようと挑戦しているのが本書。この分野の主要な論者20人以上が、「ジェンダーから見ると宗教」や「宗教におけるジェンダーの表れ」等のテーマで論じていて、極めて刺激的。



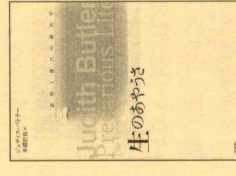
## 農村ジェンダー 女性と地域への新しいまなざし

秋津元輝、藤井和佐、渋谷美紀、大石和男、柏尾珠紀/著  
 昭和堂 2007年10月 2940円  
 農山漁村でも、男女共同参画の政策的取り組みが進みつつある。しかし、その女性自らが対抗的に立ち上がることは、かなりまれである。それはなぜか。本書は、農村におけるジェンダー問題を扱っている。



## 生のあやうさ 哀悼と暴力の政治学

ジュディス・バトラー/著 本橋哲也/訳  
 以文社 2007年8月 2625円  
 9.11以降の極度に切迫した状況をジェジュイス・バトラーはどう考えるか。第1論文「解決と免責」では、2001年秋の「検閲と反知性主義」の状況を考察する。第2論文「暴力、哀悼、政治」では、喪失のあととさまざまな攻撃的姿勢が顕在化した文脈をのべる。その他の「無限の拘留」(第3論文)、「反セム主義という嫌疑」(第4論文)、「生のあやうさ」(第5論文)



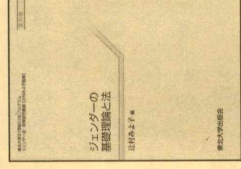
## 東アジアの国民国家形成とジェンダー 女性像をめぐって



早川紀代、季燮娘、江上幸子、加藤千香子/編  
 青木書店 2007年7月 5250円  
 日本、朝鮮、台湾、中国の東アジア近代国民国家形成期において、ジェンダーはどのような役割を果たしたかをテーマに、16人の論者が論じている。「日本の近代化と女性像、男性像、家族像の模索」(早川紀代)「植民地下朝鮮の“新女性”」(江上幸子)などが並ぶ。

## ジェンダーの基礎理論と法 東北大学21世紀COEプログラム ジェンダー法・政策研究叢書 第10巻

辻村みよ子/編 東北大学出版会 2007年9月 2310円  
 現時点でのジェンダーの基礎理論の到達点を示す本とあってよい。第一部ジェンダーとセックスでは、性差をめぐる学際的研究の到達点と課題を扱い、第二部ジェンダーとフェミニズムでは、古代からポストフェミニズムに至るフェミニズム理論の諸段階を示す。江原由美子、上野千鶴子、長谷川眞理子ら18人による論文の集積は読みごたえあり。



## &lt;性&gt;と日本語 ことばがつくる女と男

中村桃子/著 日本放送出版協会  
 2007年10月 1018円  
 日本語は「女ことば」「男ことば」という男女で異なる言葉を用意して、エロティックな関係を対幻想でおおっているのではないかと、と著者。「言語資源」という視点から、その膠着性を打開しようとする。



## 媒介する性 ひらかれた世界にむけて

河野信子/著 藤原書店 2007年9月 2940円  
 XXY、XO、XXYなど、人間の性を決める第23染色体には、XX、XYだけでなく“中間”が存在することが明らかになっている。その持ち主たちを差別しないための方策は模索され始めたところだが、しかし、その対策のいずれもが「中間の人々を目立たなくする配慮で充たされている」にすぎないと著者。「媒介としての中間の性」の「媒介性」を追求したいという。



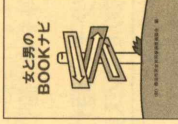
## 女と男のBOOKナビ

(財)横浜市男女共同参画推進協会/編  
(財)横浜市男女共同参画推進協会

「神奈川新聞」日曜書評欄に掲載した書評を82編ピックアップ。しごと、家族、こころ等の分野に分けて、一冊にしている。

## オリエンタリズムとジェンダー 「蝶々夫人」の系譜

小川さくえ/著  
法政大学出版 2007年10月 2310円  
ロティのオペラ「お菊さん」からブッチャー二等の「蝶々夫人」へ展開する、西欧における日本女性像の系譜に着目し、西欧での日本女性イメージはどのように形成されたのかを分析。



## 男女共同参画の実践 少子高齢社会への戦略

富士谷あつ子・塚本利幸/著  
明石書店 2007年10月 2625円  
第一章：いま、なぜ男女共同参画が必要か。第二章：地域特性と環境・労働・福祉。第三章：男女共同参画学習と活動への提言

## 子育てする魚たち 性役割の起源を探る

桑村哲生/著 海遊舎 2007年8月 1680円  
魚は父親だけが子育てする種が多いという。なぜこいうした違いが生じるのか。子育てにおける性役割とどう関わるか。行動生態学、社会生物学からの考察。



## 〔労働・仕事〕

## なめたらアカンで！ 女の労働 ペイ・エクイティを女たちの手に

屋嘉比ふみ子/著  
明石書店 2007年9月 1890円  
京ガス男女賃金差別裁判を戦い、勝利和解を勝ち取った著者の記録。この裁判は、同一価値労働同一賃金(ペイ・エクイティ)を正面から争い、日本で初めて勝利判決が出された裁判である。控訴審を経て、勝利和解という形で決着している。



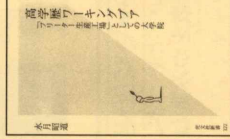
## 職場のいじめとパワハラ防止のヒント

涌井美和子/著  
産労総合研究所出版部経営書院  
2007年7月 1470円  
職場内のハラスメントは、職場全体に負のメッセージをまきちらす。その概念をはっきりさせ、解決策を打ち出していこう。



## 高学歴ワーキングブア 「フリーター生産工場」としての大学院

水月昭道/著 光文社 2007年10月 735円  
ある私立大学の講座のうち、非常勤教官が担当する割合は75%とか。大学非常勤職+コンピニのバイトといった「高学歴ワーキングブア」が増えているという。それをつくった仕組は「大学院重点化政策」。女性に限っていうならば、ずっと昔から「高学歴ワーキングブア」だった気もするが。



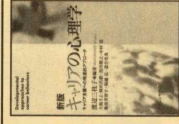
## 若者の労働と生活世界 彼らはどんな現実を生きているか



本田由紀/編  
大月書店 2007年5月 2520円  
現代日本の若者の現実を、雇用・コンビニ・進路決定・ストリートダンス・援助交際など多様なテーマでフィールドワークした報告。日本社会の新参者である若者の現実には日本社会の変貌が凝縮されている。若者に同情したり見下げたりする前に、若者に何が起っているのかをまず把握せよ、というのが著者の主張。

## 新版 キャリアの心理学 キャリア支援への発展的アプローチ

渡辺三枝子/著 ナカニシヤ出版  
2007年10月 2100円  
「キャリア・カウンセリング」についての基礎理論が述べられている。キャリアとは何か、発達とは何かの定義から始まり、新しい潮流まで。2002年の初版が改訂された。



## 10年後の名刺 「なりたい自分」に近づくためのヒント

崎しみゆき/著 リヨン社 2007年8月 1260円  
「今のままでもいいのか」と悩み「自分探しの樹海」にはまり込む若い女性たちが多いという。樹海から抜け出すために、10年後の自分

## 詳説 男女雇用機会均等法

ピープルズ・プラン研究所 2007年8月 1365円  
特集は「労働と生活の場から貧困を撃つ」。「いま労働現場で何が起きているか」(鎌田慧)。「状況をバネにエンパワーする女性たち」(伊藤みどり)。「母子家庭の貧困化が意味するもの」(中野冬美)などをデザインしてみよう。

## 季刊ピープルズ・プラン 39

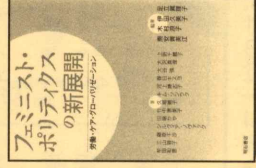
ピープルズ・プラン研究所 2007年8月 1365円  
特集は「労働と生活の場から貧困を撃つ」。「いま労働現場で何が起きているか」(鎌田慧)。「状況をバネにエンパワーする女性たち」(伊藤みどり)。「母子家庭の貧困化が意味するもの」(中野冬美)などを

書評 フェミニスト・ポリティクスの新展開  
——労働・ケア・グローバルゼーション

足立眞理子・伊田久美子・木村涼子・熊安貴美江/編著  
明石書店 2007年9月 3940円

大阪女子大学(現大阪府立大学)女性学研究センターで行われた講演の記録と関連論文集。不況、労働、ケアなど現在の社会的問題をジェンダーの視点で読み解いた論集だ。

第一部の講演録は、「不況と女性」(足立眞理子)「転換期に立つ男女雇用平等政策」(竹中恵美子)ほか、どの講演も難しいと思われる課題をわかりやすく解説している。「ケア、感情、



ジェンダー」(春日キスヨ)は、なぜ介護は女性の役割なのかを問い、ケアの感情労働の側面も指摘していて興味を引かれた。後半は、雇用や働き方について伊田久美子、木村涼子などの論文が並ぶ。上野千鶴子が「協」の働き方、作り出す働き方(NPO)について提案している。

韓国・アメリカ・カナダなどにもテーマが及び、領域が広がる気がするが、今まさに考えなければならぬテーマばかりしつかり勉強できるので、学習会などにお薦め。

## ワークライフバランス 考え方と導入法

小室淑恵/著  
日本能率協会 マネジメントセンター  
2007年7月 2625円  
企業の人事担当者や経営者にむけた、ワークライフバランスを戦略的にとらえ、導入するためのガイドブック。なるほどと思うが、「ワークライフバランス」を導入できるのは大企業だけ？

## 男女雇用機会均等法便覧 2007年4月1日施行の改正法の対応

(財)労働法令協会/編 (財)労働法令協会/発行  
(財)労働協会/発売 2007年5月 1200円  
2007年4月1日施行の改正法に対応した便覧

## 子どもがいたら、どうなるの？ 自分らしく生きる25人のママたち

坂東眞理子/監修 和田清華/編著  
大和出版 2007年9月 1470円  
子どもを産み、それをバネや糧にして人生を切り拓いてきた人たちのエッセイ集。人生をめいっぱい生きようというメッセージが満載。

## ママは働いたらもっとスゴイぞ！

和田清華/著 ダイヤモンド社 2007年8月 1260円  
子どもを理由に仕事を諦めるなんて、もったいない！という本。働くママが一步を踏みだすためのヒント本。小さな習慣をつみ重ねていこうと。

## 保育者の現在 専門性と労働環境

垣内国光、東社協保育士会/編  
ミネルヴァ書房 2007年10月 1890円  
国家資格化され、子育て支援の担い手として期待が高まる保育士であるが、労働環境や周囲の状況には悩ましいものがあるようだ。

## チェーンストアのパートタイマー 基幹化と新しい労使関係

本田一成/著 白桃書房 2007年9月 3150円

## 貧困と学力 未来への学力と日本の教育 8

岩川直樹、伊田広行/著  
明石書店 2007年8月 2730円  
貧困問題と学力問題を連続して考えていこうという試み。社会全体が貧困層を大量につくり出そうとしている時、教育はそれに向き合う、人間のエンパワメントを担うものでなくてはならないのではないかな。

## 性のこと、わが子と話せますか？

村瀬幸浩/著 集英社 2007年8月 735円  
「寝た子を起こすな」の性教育では、もう無理。親が家庭で正しい知識を与え、子どもと真摯に向き合わない。性教育に携わって長い著者が、具体的にアドバイスしている。新書版。

パートタイマーの基幹労働力化がいかなる動向をみせ、どんな状況を引き起こしているかを、チェーンストアのパートタイマー調査等を基に論じている。

## 少子化時代の多様な柔軟な働き方の創出 ワークライフバランス実現のテレワーク

下崎千代子、小島敏宏/編著 学文社 2007年9月 2415円  
ワークライフバランスを実現しながら働くひとつの試みとしてのテレワークの可能性を追究。ICTを活用した地域活性化、雇用創出としてのテレワーク、自治体との協働テレワークなど、事例も豊富。解決すべき課題も多そうだが。

ワークライフバランス社会をめざして  
女性ライフサイクル研究 第17号

女性ライフサイクル研究所/編  
女性ライフサイクル研究所  
2007年11月 1050円  
今号のテーマは「ワークライフバランス」。今まで女性たちは仕事と家庭の狭間で悩み、「ワークライフバランス」を考えてきた。最近のワークライフバランス論議は、その延長線上になくはならない。

## ワークライフバランス入門 日本を元気にする処方箋

荒金雅子、小嶋恭弘、西村智/編著  
ミネルヴァ書房 2007年11月 1575円  
日本を元気にするために、ワークライフバランスを実践しよう。本書は、ワークライフバランスの基本的な考え方やとり組みのヒントを掲載している。

## 下流社会第2章 なぜ男は女に“負けた”のか

三浦展/著 光文社 2007年9月 756円  
著者は「下流」という言葉をはやらせた人。最近の調査を分析している。一例をあげると、年収の高い男性ほど年収の高い女性を求め、年収の低い男性は自分より年収の高い女性を求めているという。会社にすぎない「下流社会」だから「妻にすがりたい」ということらしいが。

## ADHD・LD・アスペルガー症候群かな？と思ったら

安原昭博/著  
明石書店 2007年7月 1470円  
ADHD・LDなどの発達障害を持つ子どもをどう支援していくか。どんな子どもにも「自己肯定感」を持って欲しいと、著者。

## アドラー心理学に学ぶ いっこそさんのここに子育て

山口育子/著  
三学出版 2007年10月 1000円  
定評あるアドラー心理学の親子教育プログラム「パセージ」の紹介。  
基本は「勇気づけて育てる」こと。「子ども」の話を聞く「子どもにも任す」「共同の話題にする」など、マドラー心理学の実践がわかりやすく展開されている。

## 子どもの対人スキルサポートガイド 感情表現を豊かにするSSST

小林正幸、宮前義和/編 金剛出版 2007年8月 2625円  
子どもが「良好な人間関係を結び、保つための感情の持ち方および認知や行動の具体的な技術やコツ」(対人スキル)を収得するための援助方法やその実践、実際について書かれている。

## 子どもの権利擁護と市民の役割 格差社会からつながる社会へ

田中文子、畑正嗣/編著 (社)子ども情報研究センター/編  
明石書店 2007年3月 1050円  
(社)子ども情報研究センター 設立30周年記念出版。第1章：格差社会からつながる社会へ、第2章：子ども情報研究センターの歩み、第

3章:子どもの人権が守られる社会を求めて、第4章:子どもの権利条約批准10周年、これから

## 子どもと性

浅井春夫/編著 広田照幸/監修  
日本図書センター 2007年6月 3675円

教育現場でホットなテーマであり続ける「子どもの性」について、重要な論点ごとに論稿を選び出し収録。基本的論点の考察ができるように編まれている。

## 自己肯定感の育て方 ほめる・叱る・言葉をかける

ほんの木/編 ほんの木 2007年8月 1575円  
「自分は大切な存在だ」「私は私が好き」というふうな「自己肯定感」を持つことが、とにかく大切

## 子どものメンタルヘルスがわかる本 わが子のこと、気がなればじめた親のためのガイドブック

ステイプン・N・ファラオーネ/著 田中康雄/監修  
増田英子/訳 明石書店 2007年9月 2940円  
子どもが精神的、情緒的、行動的な問題を抱えているかもしれないと思ったとき読む本。子どもの精神障害について学び、必要な支援を得るために。

## 母親力 思春期をともに乗り越える

魚住絹代/著 大和出版 2007年8月 1470円  
反抗、ひきこもり、いじめ、不登校など、思春期の嵐をどうのりこえるか。

## おそい はやい ひくい たかい No.38

岡崎勝/編 株式会社パンマシニスト 2007年7月 1260円  
特集は「憲法入門-子どもと暮らす人に」。子どもに憲法のこと、どう教える?どう話し合う?その他「小学校教育で身につけたい社会科の基礎」など

## 里親と子ども vol.2

『里親と子ども』編集委員会/編 明石書店 2007年10月 1575円  
特集で「虐待・発達障害と里親教育」を組み、20人以上の論者が論じている。里親に託される子どもの背景の大きなものに、虐待、発達障害があるのである。

## 保育の底力 子どもを大切にするためのミニマム・エッセンス

浅井春夫/著 新日本出版社 2007年7月 1890円  
公立保育所民営化、児童・性的虐待、社会的貧困などの難問山積みの中で、「保育の底力」をどうつけるかを説明。子どもの「しあわせ格差」をなくすために。

## 「悲しみ」の後遺症をケアする グリーフケア・トラウマケア入門

小西聖子、白井明美/著 角川学芸出版/発行  
角川グループパブリッシング/発売  
2007年5月 2100円

大切な人を失い悲嘆にくれる人、過去の傷に苦しんでいる人にどう寄り添えばいいのか。ここで紹介されているのは「悲嘆反応」にどう対処するか。のサポート(グリーフケア)のあり方。



## 夫をうとましく思う妻の心がわかる本 こころライブラリーイラスト版

柏木恵子/監修 講談社 2007年8月 1365円  
「その通り」と思う「妻」は多いかも。通じあえないまま夫婦でいることは、やはり避けたい。

## トラウマ返し 子どもが親に心の傷を返しに来るとき

小野修/著 黎明書房 2007年10月 1765円  
子どもが親や教師から受けた心の傷を返しにくるこ  
とが「トラウマ返し」。これをきっかけに親子関係が改善されていくという。でもその対応は大切に。誤ると、とり返しのつかないことになってしまうこともある。



## もうだめ…私、子育てでつぶれそう! わかてくさい 子育てって大変なんです

田熊喜代日/著 ルネッサンス・アイ/発行  
本の泉社/発売 2007年9月 1260円  
「子育てはつらい」という率直な声があふれている本。子育ては大変、ちょっととお休みしたい…という声を聞いて!

## 保育のためのヴィゴツキー理論 新しいアプローチの試み

神谷栄司/著 三学出版 2007年10月 2415円  
乳幼児の発達、保育理論に大きな影響をもたらしたロシアの心理学者、ヴィゴツキー (1896 ~ 1934年) を著者の新しい視点から解説。

## スクールソーシャルワークの可能性 学校と福祉の協働-大阪からの発信

山野則子、峯本耕治/編著  
ミネルヴァ書房 2007年8月 2100円  
大阪でされた開拓されたスクールソーシャルワーク事業の活動報告。第I部ではスクールソーシャルワークとは何かを論じ、第II部では実務の事例を紹介、第III部ではスクールソーシャルワークのシステムづくりを語っている。



## 子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本

大日向雅美/監修  
講談社 2007年10月 1365円  
「ちゃんと育てては」との重圧に耐えながら慣れない育児をしているお母さんたちが、上手に周囲の助けを借りながら子育てを楽しめるように一を願って書かれた本。「今時の母親は」という声もあるが、「説教はいらないサポートがほしい」と。



## 子育て幼児教育50のQ&A お母さんの悩みをスッキリ解決

ほんの木/編 ほんの木 2007年10月 1575円

## 「改定教育基本法」下の学校をどう生きぬくか 4・7緊急集会の記録

4・7集会実行委員会/編  
太郎次郎社エディタス 2007年11月 1050円  
強行された教育基本法「改正」をうけて、教師、父母、市民、研究者が一堂に会した「4・7緊急集会」の全記録。

## 【こころ・癒し】

## 家族パラドクス アディクション・家族問題 症状に隠された真実

斎藤学/著 中央法規出版 2007年10月 1260円  
アディクション(依存症)研究の第一人者といわれる著者は、月2回「オープン・カウセンシング」を続けている。オープンな場で、自分の個人的な悩みを語り、カウセンサーである著者と問答するという「スリリングな試み」の一端が本になった。掲載された12のケースを読むと、現代家族に行き交う無言のメッセージと、それを支える「文法」が明らかになる。



## アディクションと家族 Vol.24 No.2

日本嗜癮行動学会/編 家族機能研究所 2007年8月 1680円  
今号の特集は「パーションナリテイ障害」。「パーションナリテイ障害」など「療」(林直樹)「サイコパシー再考」(中谷陽二)など

## 子どもたちとのナラティブ・セラピー

M・ホフワイト、A・モーガン/著 小森康永、奥野光/訳  
金剛出版 2007年9月 2730円

ナラティブ・セラピーとは、「問題解決の力はその人自身の中にある」という考え方を基本にして、クライアントに「私の物語」をつむぎ出してもらい、その中からかけがえのない自分を発見してもらおうという心理療法。本書の著者は、ナラティブ・セラピーの創始者といわれている人。子どもたちとのナラティブ・セラピーをわかりやすく解説している。

## マイクロカカウンセリング技法 事例場面から学ぶ

福原真知子/監修 風間書房 2007年7月 3675円  
マイクロカカウンセリングとは、傾聴、肯定、関係性など、コミュニケーションの1つ1つの形を、技法として、見える形で習得させようとするもの。本書ではそのカカウンセリングの基本の姿勢を呈示した。

## 女性の発達臨床心理学

園田雅代、平木典子、下山晴彦/編  
金剛出版 2007年9月 2940円

女性にとって発達臨床学はどのような意味をもつのか。女性のライフサイクルにてらした課題は何かをまとめた研究書。17のテーマに沿った論文から成り立っている。

## トラウマ的記憶の社会史 抑圧の歴史を生きた民衆の物語

大阪外国語大学、グローバル・ダイアログ研究会、  
松野明久/編

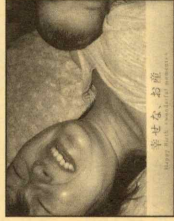
戦争・紛争・抑圧・虐待などの大きな出来事についての記憶は「トラウマ的」となり、当事者に深い傷を残す。しかしその一方で、そこから回復しようとする長く苦しいプロセスは、新しい思想を生む契機にも



## 幸せな、お産

吉村正/著 現代書館 2007年8月 2625円

著者は愛知県岡崎市で「お産の家」を営む産婦人科医。人間の意識的干渉を分娩の過程に加えてはならないという信念のもと、「自然分娩」をめざしている。この写真集の幸せな親子の映像をみると、そのことが実感できる。

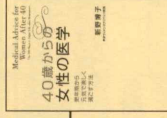


## 案ずるより産むが優し

大葉ナナコ/著 扶桑社 2007年6月 1365円  
制度が整っていないくても、産んだらきっと楽しいよ、というメッセージの本。

## 40歳からの女性の医学

新野博子/著 海竜社 2007年9月 1470円  
更年期からの生活を楽しく過ごすために



## 乳がんの早期発見と治療 これで安心

乳房健康研究会/編著 小学館 2007年9月 1470円  
見落としのない検査、納得できる治療を選ぶために。

## 更年期とホルモン補充療法 お医者に行く前にまず読む本

アン・マクレガー/著 高木耕一郎/監訳 三校小夜子/訳  
一灯舎/発行 オーム社/発売  
2007年9月 1050円  
更年期をのりきるために施されるホルモン補充療法についての解説。コンパクトにまとめられている。



## よくわかる乳がん治療 名医の図解

福田護/著 主婦と生活社 2007年8月 1365円

なる。本書に記されているのは、新しいプロセスをたどった8つの物語。「タン・キムのジレンマ」[クメール・ルージュ体制下の性暴力にどう向き合うか]など

## ひきこもりの〈ゴール〉 「就労」でもなく「対人関係」でもなく

石川良子/著 青弓社 2007年9月 1680円  
社会との接点を失った存在としての「ひきこもり」の人々。自立しない(できない)人々として当事者に責を負わせる傾向もあるが、問題は社会的構造にあるという認識も広がっている。であるならば、ひきこもりの若者が何を求めてひきこもっているのかを知ることが大切。ひきこもりの若者の目指したいゴールは何なのだろう。

## 拒食症・過食症を対人関係療法で治す

紀伊国屋書店 2007年10月 1680円  
拒食症・過食症の治療は、「元どおりにする」ことではない。「対人関係が楽になる」ことが、治療の到達点。



## アサーティブ・コミュニケーション 言いたいことを「言える」人になる

岩船展子、渋谷武子/著  
PHP研究所 2007年9月 1260円  
「言いたいけど、言えない」から「言いたいことを言える」になり、「言えるけど、言わない」という選択ができるようになる。人との付き合いが楽になりそう。「アサーティブ・コミュニケーション」を習得しよう。



## 家族の病気はあなたへのメッセージ

田原祐子/著 総合法令出版 2007年11月 1365円  
家族の誰かの「病」をきっかけに、家族間の関係が平和になる場合がある。それは「家族の病気は家族へのメッセージ」だと気づき、逃げずに向き合ったから。著者の体験を含めて、家族や自分自身としっかり向き合うことのべている。

## 〔からだ〕

## 乳がんの歩きかた 余命を生きて50の物語

田村まり子、二松啓紀/著  
文理閣 2007年8月 1575円

末期乳がんの診断を受けてから4年。大病院から民間病院へ転院し、未承認薬の治療をうけ、旅行やショッピングを楽しむ、「生活の質」を保ちつつ闘病している著者の生活を、新聞記者が記録。



## いつまで産める？わたしの赤ちゃん いま、不妊治療・生殖医療ができること

川田ゆかり/著 実業之日本社 2007年8月 1575円  
著者は、米国で起業。医療コーディネーターとして、子どもが欲しい日本人の不妊治療、生殖医療の相談にのっている。日本では不可能な医療の数々が解放されている米国。「全ての人に自分の身体の可能性とあらゆる選択肢を知ってほしい」というのが著者の立場

## 女性の病気は自分で治す 医者と薬に頼らない！

石原由貴/著 主婦の友社 2007年10月 1260円  
肩がこる、めまいがする、のぼせる等の「不定愁訴」を治すために、どうしたらいいか漢方を交えて解説。

## 子宮がん・卵巣がんとともに生きる 16人の女性と家族のストーリー

宇津木久仁子/著 保健同人社 2007年11月 1260円  
著者は臨床の傍らで、がん患者によりそう活動もしている婦人科医。そうした活動や仕事の中で知り合った婦人科のがん患者の人たちの実際の状況を伝えている。16人の女性と家族のストーリーである。



## 〔法律・政治・政策〕

## 間接差別禁止とジェンダー ジェンダーと法 No.4

ジェンダー法学会/編  
日本加除出版(株) 2007年7月 3150円  
第1部:法科大学院におけるジェンダー  
法教育。第2部:間接差別とポジティブ・ア  
クシオン。その他ジェンダー法学会学術大  
会の記録。法科大学院でジェンダーと法に  
関連する科目が教えられているのは、37.8  
%にすぎないそうだ。

市民活動のための自治体入門 行政は何を考  
え、どのように行動するのか

松下啓一/著 (社)大阪ボランティア協会  
2007年3月 840円



協働の時代、政策提言をしようとすると市  
民のために、提言のノウハウをわかり易く解  
説。行政の行動様式には、オドロキがいっぱ  
い?! これを一応知ってから、効果的な活  
動をしていこう。

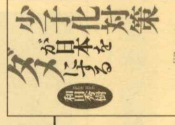
## 人口減・少子化社会の未来 雇用と生活の質を高める

小峰隆夫+連合総合生活開発研究所/編  
明石書店 2007年5月 3360円  
人口減少社会における経済、労働、社会保障政策の  
課題についての「連合」シンクタンクの共同研究。人口  
減少の問題を「勤労者、生活者」の視点から扱ったと  
いう。第1部:基本的視点。第2部:人口減少の悪影響を  
いかに防ぐか。第3部:少子化にいかに関止めをかける  
か。



## 少子化対策が日本をダメにする

和田秀樹/著 グラフ社 2007年8月 1300円  
少子化は時代の必須。「少子化対策」をして量を論じ  
るより、子どもや子育ての「質」を考えようというのが  
著者の主張。



## ストーカー行為等規正法の解説 四訂版

橋本裕蔵/著 一橋出版 2007年7月 777円

## Gender&amp;Law in Japan

Miyoko TSUJIMURA, Emi YANO/編  
東北大学出版 2007年 2100円  
すべて英文で書かれている。『日本におけるジェンダーと法』。海  
外の友人への紹介に。フェミニスト英語の学習に。

## プライドと情熱 ライス国務長官物語

アントニア・フェリックス/著 渡邊玲子/訳 角川学芸出版/発行  
角川グループパブリッシング/発売  
2007年7月 1890円



「世界でもっとも影響力のある女性」といわ  
れるコンドリーザ・ライスイス米国務長官の評伝。こ  
れほどまでのスーパースターウーマンが誕生した背  
景には、両親の影響と教育の力が大きいようだ。

## 運命の出会い、一枚の布 「フェイラー」を育て上げた女性起業者の軌跡

山川和子/著 朝日新聞社 2007年6月 1890円  
モスクワ滞在後、パリで販売を学び、ユダヤ人の夫とともに日本  
でモンリープ社を立ちあげ、シュニール織の販売を始めた著者のこ  
れまでの軌跡。

## 引き出しの中ぜ〜んぶ 香代子の車いすガッツハッハ人生

入部香代子/著 障害者問題資料センター/ほん社  
2007年7月 1300円



「24時間介護が必要な日本初の車いす女性市議会議員」である著者の16年間の議員生活のこと、障害者への  
メッセージなど。そのメッセージとは、「未来を担う  
障害当事者の若者よ、今こそしっかりと目を開いて本質  
をつかんでほしい」ということ。整いつつある福祉制  
度に目を奪われず、本質を見て、と。

## 外国人・民族的マイノリティ人権白書

外国人人人権法連絡会/編  
明石書店 2007年9月 2940円  
排外主義、外国人嫌悪の傾向が強まっている今の  
日本で、外国人・民族的マイノリティの人々が直面し  
ている問題は何か。具体的にみていこう。ウトロ立ち  
退き問題、在日の無年金問題、移住女性への暴力、出  
入国管理、就労問題などなど。論点はとにかく多岐。



## 実務ジェンダー法 講義

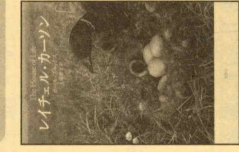
吉岡睦子、林陽子/編著  
民事法研究会 2007年9月 3885円  
実務者・研究者向き参考書。法科大学院ジェンダー  
法学のテキストとして書かれている。総論から憲法、  
民事法、刑事法、国際法に至るまで、実務にそった  
ジェンダー法解説とによってよい。



## 超少子化時代の未来学

毎日新聞社人口問題調査会/編  
論創社 2007年8月 2625円  
超少子化時代を迎え、日本の社会をどうつくっていくたらしい  
か、毎日新聞社人口問題調査会、定例研究会の報告。大淵寛、大沢真  
知子、岩間曉子、山田昌弘など。

## レイチェル・カーソン



ポール・ブルックス/著 上遠恵子/訳  
新潮社 2004年3月 2940円  
『沈黙の春』のレイチェル・カーソンの生涯  
と作品を記した定評のある本。環境問題が  
よくよく世界的合意をもってとりあげられ  
つつある今、新装版が出た。

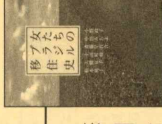
## マウマウの娘 あるケニア人女性の回想

ワンボイ・ワイヤキ・オティエノ/著 雷永智津子/訳  
未来社 2007年5月 2730円  
ケニアの名門一族に生まれた著者は、16歳で植民地  
解放軍兵士となる。独立後、著名な弁護士であった夫の  
遺体埋葬をめぐる「埋葬裁判」が起り敗訴。その屈辱  
をバネに、ケニアの民主化と女性解放にたち向かう。「埋  
葬裁判」といっても日本ではピンとこないだろうが、ケニアで今なお色  
濃い慣習や女性差別に対する戦いだっただの。



## わたちのブラジル移住史

小野政子、中田みちよ、斎藤早百合、土田町枝、  
大槻京子、松本純子/著 日下野良武/監修  
毎日新聞社 2007年8月 2100円  
日本からブラジルに渡りそこに永住する6人の女性た



ちが、それまでの道筋を書いた。41才から85才までのたくましい女性たちの自分史である。ブラジル移民が始まってから100年になる。

## ひとすじの道 中村道子ライフストーリー

赤松良子、中田美子、松本泰子、山下泰子/編  
国際女性の地位協会 2007年6月 1575円

「国際女性の地位協会」などで、女性の地位向上、人権確立に尽くしてきた中村道子さんのライフストーリーの聞き書き。「国際女性の会」20周年と中村道子さんの米寿を記念して発行された。



## 生きてこそ輝く ナチス、離婚、貧困、ガン…苦難と闘った女の一生

ゲール・エルトン・メーヨー/著 持田鋼一郎/訳  
PHP研究所 2007年10月 1785円

ゲール・エルトン・メーヨーの自伝的回想三部作の第三作。第二次大戦下、ドイツに占領されていたフランスが舞台。オーストラリアの名門に生まれながら時代に翻弄され、離婚や病に悩まされながら生きた著者は、1992年ロンドンで没。

## マダム貞奴 世界に舞った芸者

レズリー・ダウナー/著 木村英明/訳

集英社 2007年10月 2625円  
ニューヨーク、パリ等で高い評価を受けた日本最初の女優。川上音二郎と福沢桃介(福沢諭吉の女婿)とかかわり、その仕事を支援した人。著者は「フジヤマ、ゲイシャ」のイメージではない「日本文化の身体表現者」としての貞奴を描いている。



## 〔文学・エッセイ・芸術〕

### 中国「女書」探訪

細見三英子/著 新潮社 2007年8月 1365円

中国湖南省の奥地に、女性だけが読み書きできる文字が伝わっているらしい。それを聞いた著者たちは中国奥地にまででかけていく。わかったことは、女性のネットワークによって伝えられた「女だけ」の文字の存在。ロマンの薫りがする紀行文。



### 女ことばはどこへ消えたか？

小林千草/著 光文社 2007年7月 893円  
「浮世風呂」「三四郎」等にもみられる女ことばは、何を伝えようとし、どう変化し受け継がれてきたのかを詳細に検証。「女」であり、人間であることの表現史において優先させざるべきは「人間であること」の方。しかし、「人間である表現」が「即ち男性と変わらない言葉」ではないというのが、著者の立場。



### 女性状無意識 テクノガイネシス—女性SF論序説

小谷真理/著 勁草書房 2007年10月 3310円

東西の女性作家によるSF小説、論文を読み解き、書き手が、意識的または無意識的に刷り込まれた旧来の女性像を脱却していく様子を洞察している評論集。テーマは、母娘関係、出産、セクシュアリティ、「サイボーグフェミニズム」まで、多彩で刺激的。



## 差別と向き合うマンガたち

吉村和真、田中聡、表智之/著 臨川書店 2007年7月 3415円  
「差別」と「マンガ」をめぐる様々な悩ましい問題を取り上げ、議論している。例えば「紅一点」が意味するものは何か、黒人描写問題の論点はどこにあるかなど、様々なトピックスについて問題提起。

## 「ヒロシマ以後」の広島に生まれて 女性史・「ジェンダー」…ときどき大

平井和子/著 (有)ひろしま女性学研究所  
2007年8月 1050円

広島で中学まで育ち、今は大学で女性史の教鞭をとる著者の日々の心象がつづられている。名前のごとく平和(平井和子)を求めている。



## 筑豊 ヤマが燃えていた頃

井手川泰子/著 河出書房新社 2007年6月 2520円  
大煙突がもくもくと煙を出し、日本の産業を支えていた頃の筑豊炭鉱の写真と文章がつづられている。50年前、確かにそこにあった生活と風景。

## 男子



梅佳代/著

リトルモア 2007年8月 1995円  
売り出し中の若手写真家「うめかよ」が撮った、大阪の街に住む「男子」の写真集。「誰も」が知ってる、いちばんバカで、いちばんカッコイイ季節」にいる男の子たちの路上の姿。

## 戦後少女マンガ史

米沢嘉博/著 筑摩書房 2007年8月 924円

1980年に刊行され、戦後マンガ界に旋風をまきおこした『戦後少女マンガ史』が文庫となって再び刊行された。「少女マンガ」というジャンルができる前の前史から、少女マンガ幼年期、リボンの騎士の登場、ベルバラ、萩尾望都まで。著者の急速に伴う刊行であるが、手軽に読めるようになったのはうれしい。



## いのち愛する娘 ものみな一つの細胞から

中村桂子、山崎陽子/作 堀文子/画  
藤原書店 2007年4月 1890円

目をみはる思いの、きれいで不思議な虫や魚や細胞、微生物の絵と、奥の深い文章でつくられた、「いのち」をたたええる絵本。バクテリアも人間も何もかも、すべての生き物が、たった一つの細胞から生まれた、同じ命——。



## 少女マンガにおけるホモセクシャリティ

山田鶴子/著 ワイズ出版 2007年7月 1470円  
日本に特有の少女マンガの世界。70年代になると突如として「ホモセクシュアリティ」が出現するという。そのメカニズムは何で、なぜ70年代なのかを本書は解説。この40年で、日本人の性に関する意識や感覚がこんなにも違ってきたのかと、驚く。

## 草の上の舞踏 日本と朝鮮半島の間に生きて

森崎和江/著 藤原書店 2007年8月 2520円

朝鮮大邱に生まれ「朝鮮半島の風土をむさぼり愛し」ながら、日本人としての原罪意識のもと戦後を生きてきた著者の、戦後の日々々の一端をまとめたもの。

## 70代三人娘、元気の秘訣

依藤子、吉武輝子、樋口恵子/著  
講談社 2007年7月 820円

後期高齢期に入りつつある三人の70代。元気の秘訣は「夢を持ち続け、自分の生を生き続けること」のようだ。



## 風韻にまぎれずく哀号&gt;の叫び 深山あき歌集Ⅱ

深山あき/著 鈴木裕子/編注 梨の木社 2007年8月 2100円  
1924年生まれの著者が、平和・九条擁護を歌にしている。鈴木裕子氏の注解付き。

## 風の音楽 はばたけ九条の心 深山あき歌集Ⅲ

深山あき/著 鈴木裕子/編注 梨の木社 2007年8月 2100円  
深山あき歌集第三巻のテーマは九条。戦争放棄」を歌に託して、うたいこんでいる。

## 彼のことがわからない 選べない、決められない、いまだきの男たち

亀山早苗/著 ポプラ社 2007年8月 1470円  
感情表現が下手、女性に声をかけられない、結婚から逃げる男たちが増えている、というのが著者の観察。「女は生き生きしているのに」

## 川内倫子写真集 種を蒔く/セメアール

川内倫子/著 フォイル 2007年7月 2940円  
30代の先鋭写真家、川内倫子のブラジルでの写真の数々。

## 大発作 てんかんをめぐる家族の物語

フレデリック・ポワゾン/監修 ダビッド・ベア/著 関澄かおる/訳 明石書店 2007年7月 3940円  
てんかんを患う兄とその家族の軌跡を描いた自伝的なフランスまんが、著作のダビッド・ベアはフランスまんが界の名匠。日本、アメリカとともに世界の三大市場を担うフランスまんがも楽しめる。

## リッチウーマン

キム・キヨサキ/著 日根美保子/訳 筑摩書房 2007年7月 1785円  
女性のための投資入門書。人からああしろこしろと言われなくてもやっていける為に、お金をためようという本。興味がわいたら読んでください。

## ともに生きる たとえ産声をあげなくとも

流産・死産経験者で作るポコスママの会 中央法規 2007年6月 1575円

流産や死産で「わが子」を亡くしてしまった親たちの体験とその思いを受け止めた医師、助産師の文章からなっている。一言では言い表せない多くの感情や、医師たちとのやりとり、不満、慰めが書かれた体験談と、それを踏まえての医療従事者たちの感想。

## ビッグイシュー 突破する人びと 社会的企業としての挑戦

神田和博/著 大月書店 2007年6月 1575円  
1991年ロンドンで誕生したストリートペーパーの日本版は、2003年に数人の日本人により創刊される。ホームレスから買う「ビッグイシュー」それはチャリティではなくビジネスである。本書は日本版ビッグイシューをめぐる創業者、ホームレスたちの物語。

## プリンセス・マサコ

ベン・ヒルズ/著 藤田真利子/訳 第三書館 2007年9月 1890円  
訳者いわく「本書は、ある人権侵害の記録である」。人権を侵害されているのは、皇室の人々。侵害しているのは「日本国民」。賛否両論ある中、刊行。

## ありがとう、さようなら

瀬尾まいこ/著 メディアファクトリー 2007年7月 1260円  
著者は中学校の国語教師を続けながら作家活動をしている人。学校での初々しい教師生活を中心に、雑誌「ダ・ヴィンチ」に連載したエッセイが一冊になった。

## アリスの服が着たい ヴィクトリア朝児童文学と子供服の誕生

坂井妙子/著 勁草書房 2007年7月 3045円  
西洋で子どもが大人と異なる服装をするようになったのは1770年代以降で、児童文学作品や絵本の人気登場人物の服装が商品化されたのは、19世紀後半だそう。服は第二の皮膚ともいう本書は「子ども時代特有の文化」をイギリス社会の特徴をふまえて概観している。

## 女流文学者会・記録

日本女流文学者会/編 中央公論新社 2007年9月 1890円  
かつて「女」のものの書き手がほとんど評価を得にくかった時代、女性作家たちは「女流文学者会」をつくってはげまっていた。本書は2006年に役割を終え解散した同会の記録。吉屋信子、長谷川時雨、円地文子、平林たい子など、そうそうたるメンバーが思いをよせている。

## 神の火を制御せよ 原爆をつくった人びと

パール・バック/著 丸田浩/監修 小林政子/訳 径書房 2007年7月 2415円  
1945年、原爆を投下する計画を担うチームに優れた女性加わっていた？ 彼女は、無差別大量殺人が可能な「科学的発明」をどう考え、どう行動したのだろ？ 原爆投下は避けられたのか？ パール・バックの「幻の原爆小説」がついに翻訳された。

## I am 岡田敦写真集

丹越桂/編 赤々舎 2007年7月 2940円  
リストカットの経験者が被写体の写真集。彼女たちと写真家の間に信頼がなければ撮れない写真である。傷あとが幾重にも重なり、生々しすぎる。

## 海鳴りの響きは遠く 宮城県第一高女生徒勤労動員の記録

神谷恵美子/監修 草思社 2007年7月 1575円  
昭和19年10月、宮城県第一高女4年生に学徒労働員令が下り、生徒たちは横須賀近くの火工場へ。本書は戦争という時代の渦にまきこまれ、懸命に働き生きた少女たちの記録である。今では想像もできない「青春のけなげ」がそこにはあるが、こういう青春時代を二度と過ごさせてはならない。初版から25年を経て、このたび復刻出版された。

## 清らに生きる 伊都子のことば

岡部伊都子/著 藤原書店 2007年7月 1890円  
少女時代から80才までの今に至るまでに書きつづられた言葉の中から、印象に残る言葉133編を年代順に編集。一筋の、生きてきた道がくっきりと。

## フリーダ・カーロのざわめき

森村泰昌、藤森照信/著 新潮社 2007年9月 1575円  
交通事故による病や痛みを超え、燃える恋と激烈な画業に生きたフリーダ・カーロの生誕100年記念出版の作品と写真。「伝説の画家」ともいわれる姿に迫っている。

## カブール・ビューティー・スクール デビーとアフガニスタン女性たちのおしゃれ奮闘記

デボラ・ロドリゲス/著 仁木めぐみ/訳 早川書房 2007年7月 2100円  
タリバン支配が去った後のアフガニスタン、カブールに美容学校を建てた1人のアメリカ人美容師がいた。抑圧されていたアフガニスタンの女性たちは、美容技術を学び、経済的自立への道を踏み出していた。

## セックス放浪記

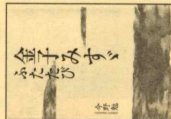
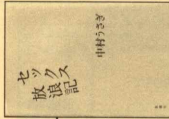
中村うさぎ/著 新潮社 2007年9月 1260円  
デリヘル体験(「私という病」)以降の、著者のセックス体験記。今回は「ウリセンバー」を体験。

## 〔新編〕日本女性文学全集1

岩淵宏子、長谷川啓/監修 青柿堂/発行 星雲社/発売 2007年8月 5250円  
近代出版期から現代までの女性文学の集成、全12巻の刊行が始まった。第1巻は、三宅花圃、中島湘煙等の先達たち。女性文学の見直し、再評価をめざしている。

## 金子みすゞふたたび

今野勉/著 小学館 2007年10月 1680円  
NHKスペシャル「こころの王国 童謡詩人金子みすゞの世界」で金子みすゞを世に出したテレビディレクターが、10余年を経て、再びみすゞの道をたどる。遺された512編の詩を改めて読み解き、新事実を発掘し



ながら、みずの世界にせまってい。

## 戦争を読む

加藤陽子/著 勁草書房 2007年6月 2310円  
戦争を論じた本について、著者の書評を集めたもの。吉村昭「彰義隊」から安倍晋三「美しい国へ」まで、「戦争」をキーワードに書評を並べると、それを通して戦争に至る論理がみえてくると著者はいう。

## 女子の本懐 市ヶ谷の55日

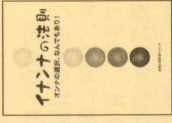
小池百合子/著 文藝春秋 2007年10月 787円  
2007年7月4日から8月27日までの55日間の防衛大臣としての日記。守屋前防衛事務次官の業者との癒着ぶりが明らかになる前の「無気味な小事の積み重ね」日記である。

## 明日を紡ぐラオスの女性 暮らしの実態と変化のゆくえ

風野寿美子/著 めこん 2007年9月 2625円  
急激に変化しつつある現代のラオスの女性たちの姿を追っている。内乱をのりこえ、少しずつ消費文化が広がって、都市と農村との格差が拡大しつつある現代ラオスが、たくましく生きる女性たちの生活に分けて入って取材。

## イナンナ法の則 オンナの選択、なんでもあり!

地球女倶楽部イナンナ 地球女倶楽部イナンナ/編  
地球女倶楽部イナンナ 2007年10月 1000円  
地球女倶楽部イナンナとは、地球規模で考え、行動する明るく元気なプロ意識あふれる女性たちの異業種交流会。会設立20周年記念に本書が刊行された。本書を読むと、たくさんの「イナンナの女たち」に会える。



## 米原万里の「愛の法則」

米原万里/著 集英社 2007年8月 693円  
2006年5月、闘病の傍ら、最後の最後まで書き続け、転移性ガンで逝った米原万里の代表的講演4つをまとめたもの。一流のロシア語同時通訳者、作家、エッセイストとして活躍した著者の面目躍如。稀有の語り手であったこともわかる。



## うめ版

梅佳代×新明解国語辞典/著 三省堂 2007年7月 1470円  
今注目されている写真家梅佳代の写真と、それにぴったりの新明解国語辞典の言葉が見開きで掲載されている。写真と国語辞典のそれぞれがそれぞれを引き立てて、奇妙な調和がもしも出されている。編集の妙が楽しめる。

## 大好きな本 川上弘美(書評集)

川上弘美/著 朝日新聞社 2007年9月 1890円  
芥川賞作家川上弘美が選んだ珠玉の144冊の書評集。「ほんとうにいい」と思うものについては、「あおぞみしてしまう」のだけそう。

## 漱石夫妻 愛のかたち

松岡陽子マツククレイン/著 朝日新聞社 2007年10月 735円  
著者は漱石の孫娘で、作家、松岡譲の娘。小さい頃の母たちから聞いた思い出話から、漱石夫妻のかたちを描いている。

## ブックストア・ウォーズ

碧野圭/著 新潮社 2007年10月 1470円  
27才の新婚書店員と40才の女性店長が、職場である書店閉鎖の危機にタッグを組んで立ち向かう。書店という職場のリアルな状況がわかります。

## 〔セクシュアリティ〕

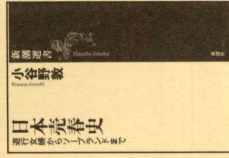
### 性風俗史年表 1945-1989 昭和(戦後)

下川歌史/編 河出書房新社 2007年7月 3940円  
下品とみなされがちな性風俗であるが、それは1個人個人の欲望や好奇心、後悔、拒絶の総和」ともいえるべきものであり、「歴史」の中に組み込まれていくはずのもの。本書では、「売春、セックス産業」「性犯罪、性的事件」「性の文化、性の科学」「性の規制、社会一般」の4つの視点別に、1年ごとの出来事を年表風に並べている。全ページに写真が入り、なるほど。



### 日本売春史 遊行女婦からソープランドまで

小谷野敦/著 新潮社 2007年9月 1155円  
日本の売春についての定説を徹底的に吟味し、論じている。第一章「売春に起源はあるのか」では、「長らく売春の起源が議論されてきたが、そもそも論じる必要はない」とバツサリ。網野善彦や佐伯順子、宮台真司、中村うさぎも組上にのせられている。「売春は必要悪」というのが著者の主張。



### 揺らぐ性・変わる医療 ケアとセクシュアリティを読み直す 健康とジェンダーⅣ



根村直美/編著 明石書店 2007年10月 2940円  
「身体と医療・科学・技術」をテーマにしたシリーズの第四弾(最終巻)は、「ケアとセクシュアリティ」をキーワードに、8つの新進研究者の論文を並べている。医療という現場での患者の当事者性や看護師などケアを提供する人々の自律性と意思決定は、どう確保されるべきか、セクシュアリティ・健康をめぐる運動戦略はどうだったかなど、その論点は、先鋭的で刺激的。今後の可能性を拓く諸研究といえよう。一般的な読者にとっては読みにくい書き方があるかもしれないが、具体的にみていくとわかりやすい。いずれ、こうした論点もこねられていくはずだ。(15ページ参照)

### 季刊セクシュアリティ No.33 人間と性をめぐる教育と文化の総情報誌



エイデル研究所 2007年10月 1575円  
今号の特集は「自己肯定感って、なに?」。「子ども」の自己肯定感をさぐる(木全和己)「思春期、からだの変化と向き合う」(金子由美子)など

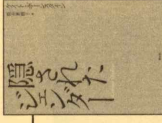
## 娘たちの性@思春期外来

家坂清子/著 NHK出版 2007年7月 735円  
著者は産婦人科医。思春期外来で見たこと、性教育のこと等あるがまぎれずに記述。「若者の性」の危機的状況を訴える。



## 隠されたジェンダー

ケイト・ボーンスタイン/著 筒井真樹子/訳 新水社 2007年9月 2940円  
1990年代初頭は、アメリカでバックラッシュが盛んだった時代。それに抗う中で、本書が書かれた。著者自身も、ついでに言うなら訳者も、セクシュアルマイノリティ。クィア(変態)と烙印を押されたことを逆手に取り、独自の「トランスジェンダー・スタイル」を表現していく。



## 〔家庭・家族・衣食住〕

## 新版 新世紀の家族さがし おもしろ家族論

増子勝義/編著 学文社 2007年8月 2625円



家族員それぞれが他の家族員と真剣に「向き合うこと」をしなくなってきたのではないかと著者。本書はそんな家族のあり様を総論的考察をした基礎編と、恋愛、性別分業、生殖等のテーマ別に扱った展開編で構成されている。家族論のロングセラーが10年の時を経て新版に。

## 家族の倫理学

志水紀代子/著  
丸善株 2007年11月 1995円

家族をめぐって悲劇的な事件がくり返されている。そういう今日の問題をふまえ、ハンナ・アーレントの世界観をひきつつ、これからの「家族」のあり方を探っている。

## 夫婦・親子の法(律)と手続き ケース別文例57

三修社 2007年6月 1680円

## リスク・ファミリー 家事調停の現場から見た現代家族

井上眞理子/著 晃洋書房 2007年7月 1995円

社会学者でもあり家事調停員でもある著者が、現場でみた現代家族のリスクキーな姿を報告。問題解決の道を探る。

## スッキリ!離婚宣言 女性に有利な離婚の仕方、教えます!

木村絵美/著 インフォレスト/発行  
ローカス/発売 2007年9月 1365円

## Q&amp;A離婚トラブル110番 元気な“前向き離婚”のために

離婚問題研究グループ/編  
民事法研究会 2007年8月 1890円

## シングルマザーが暮らしを切り切るための51の方法

NPO法人しんぐるまざー・ふぉーらむ

2007年8月 800円

シングルマザー、シングルマザーになるかもしれない人々に向けて、その生活や人生をサポートすることをミッションにしたNPOが「乗り切り方」を伝授。シングルマザーの立場に立った、有益なアドバイスがいっぱい。



## 〔セクハラ・暴力〕

## 慰安婦問題という問い 東大ゼミで「人間と歴史と社会」を考える

大沼保昭、岸俊光/編 勁草書房 2007年8月 2940円

「思考停止」の状態になっている「慰安婦」問題に正面から取り組んだ東大のゼミナールの記録。本書の最大の特徴は、歴史家、フェミニスト、「右派」、渦中にいた元首相、元官僚といった全方位の論客が、それぞれの立場から率直に語っていること。結論は、勿論、出ないが、真剣な論議がひしひしと伝わってくる。論者は和田春樹、秦郁彦、吉見義明、上野千鶴子、長谷川三千子、石原信雄、村山富市の面々。

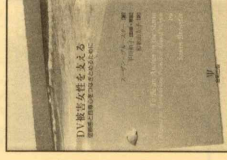


## STAND 立ち上がる選択

大藪順子/著 いのちのことば社  
2007年11月 1575円

著者はフォトジャーナリスト。アメリカ留学中、レイプに会い、うつ状態に。その後、同じように傷ついている人たちのために、プロジェクト(STAND)を立ち上げ、アメリカの対性暴力政策に影響を及ぼす。本書はそんな著者の道筋を記したもの。

## DV被害女性を支える 信頼感と自尊心をつなぎとめるために

スーザン・ブルースター/著 平川和子/監修・解説  
和歌山友子/訳  
金剛出版 2007年9月 2730円

著者は27年間にわたってサイコセラピストとして働いてきた人。自身もDV被害者だった経験をもつ。DV被害者には(にも)も、つながりの感覚と自尊心を支えてくれるアンカー(錨)のような友人や家族が必要だということを、くり返し述べている。

## 虐待サバイバーとアディクション

ケイティ・エバンズ、J・マイケル・サリバン/著 斎藤学/監修  
白根伊登恵/訳 金剛出版 2007年11月 3780円

化学物質依存(アディクション)のある児童期トラウマ、サバイバーの治療について書かれている。サバイバーのための体系的プログラムをのせている。治療の専門家に向けた本なのであるが、そうでない人が読んでも、サバイバーの状況と治療過程の実際にひきこまれる。

## 女兒に対する差別と暴力 実態と撤廃に向けた取り組み

房野桂+田中正子/編著  
明石書店 2007年8月 2100円

JAWW(日本女性監視機構)が、2007年の国連婦人の地位委員会における日本政府のとりべきスタンスを提言した「日本NGOレポート」の内容と、実際に国連でそれがどのように議論されたかを報告。



## ドメスティック・バイオレンスとジェンダー 適正手続と被害者保護

吉川真美子/著 世織書房 2007年7月 2940円

被疑者、被告人の適正手続という「規制」を守りつつ、DV被害者

の権利と安全を最大限守るためにはどうしたらいいのか。米国の法義務的逮捕やデュープロセス、逮捕の決定に際しての警官のジェンダー・バイアスなどを論考。

## オレの心は負けてない 在日朝鮮人「慰安婦」宋神道のたたかい

樹花舎/発行 星雲社/発売 2007年9月 1680円

在日の元慰安婦として日本国を相手に提訴した宋神道さんとその支援者たちの10年におよぶ闘いの記録。映画化もされている。敗訴しても「オレの心は負けてない」と。



## ポルノグラフィ防衛論 アメリカのセクハラ攻撃・ポルノ規制の危険性

ナデーン・ストロツェン/著

岸田美貴/訳 松沢呉一/監修

ポット出版 2007年10月 3570円

「ポルノが犯罪を助長する」という理由でポルノグラフィを規制しようという勢力に反対している。著者はアメリカ自由人権協会会長。表現の自由を守るために、ポルノ規制に反対する。



## セクハラ相談の基本と実際

周藤由美子/著 新水社 2007年10月 1050円

職場や学校でセクシュアルハラスメントの相談員になった人のための手引書。相談員が孤立して追いつめられないように、被害者支援が有効にできるように、この本を役立てて！



## 〔メディアア〕

## オトナのメディア・リテラシー

渡辺真由子/著 リベルタ出版 2007年10月 1575円

自分の頭で情報を判断しよう、という本。テレビ局を経てカナダでメディア・リテラシーを研究した著者が、メディアと付き合うノウハウを伝授。メディアと性暴力表現、映画の作家的性、サイバーフェミニズムなど、ジェンダーの視点がしっかり入っている好著。



## 〔絵本・子どもの本〕

## 世界のだっことおんぶの絵本

エメリー&amp;ドゥルガ・バーナード/文・絵

仁志田博司、園田正世/監訳

メディカ出版 2006年10月 1680円

世界中、どこでも、赤ちゃんはおんぶやだっこをされている。ブラジルの熱帯雨林では？北極の凍った海では？ネパールの山丘地帯では？



## イラスト版 気持ちの伝え方

高取しづか+JAMネットワーク/著

合同出版 2007年7月 1680円

子どもたちにはぜひ身につけてほしいコミュニケーション力をトレーニングするためのガイドブック。書き込みながら進めるようになっている。



## 野のごちそう帖

花房葉子/著 自然食通信社

2007年7月1785円

著者は北海道旭川市でパン屋「麦々堂」を営みながら、画家、イラストレーターもしている人。愉快的イラストと文章で、旭川の暮らしをうつっている。



## 子どもの本に描かれたアジア・太平洋 近、現代につくられたイメージ

長谷川潮/著 梨の木舎 2007年8月 2940円

19世紀末から20世紀半ばに、日本の子どもがアジア・太平洋地域についてどのようなイメージを得ていたかを検証。本や雑誌等のメディアの影響の大きさは計り知れないものがあるということを改めて確認。



## DAYS JAPAN Vol.4 No.9

広河隆一/編 (株)デイズ・ジャパン 2007年9月 820円

「性犯罪ビデオの現場」「人権問題」を問い直す3人の生き方」など

## 君、殺したまうことなかれ 憲法行脚の思想2

落合恵子、佐高信/編 セツ森書館 2007年8月 1365円

憲法の価値を改めて問い直し、憲法9条の意義を広めようとする「憲法行脚の会」の2冊目の本。香山リカ、姜尚中、斎藤貴男、澤地久枝、土井たか子など。

## アジェンダ 第17号・第18号 未来への課題

アジェンダプロジェクト/発行 星雲社/発売  
2007年6月・9月 各500円

## 職場でのセクシュアルハラスメント問題解決事例集

13のケースから学ぶ

(財)21世紀職業財団

2007年8月 1300円

職場で起きたセクシュアルハラスメントに対する具体的な対応ノウハウの事例集。13のケースや裁判例で解説している



## 〔資料・雑誌〕

## 女性白書2007



日本婦人団体連合会/編

ほるぷ出版 2007年8月 3360円

日本婦人団体連合会が毎年出している「女性白書」が今年も。今号の特集は「少子化と女性」。浅井春夫、牧野富夫、池上清子など。

## 日本女性史大辞典

金子幸子、黒田弘子、菅野明子/編

吉川弘文館 2007年11月 26250円

## ありがとう澤田和子さん あごら314号新宿発

BOC出版部 2007年10月 1050円

7月末旅立った澤田和子さん(あごら大阪)の追悼号

## お金で死なないための本 いつでもカード、どこでもローンの落とし穴



宇都宮健児/監修 千葉保+クレサラ探偵団/著

太郎次郎エディタス 2007年10月 1890円

消費者金融、クレジットカードなど、お金にまつわるものもろのこを、子どもの間にしっかり学習しておこう！

## どんぐりマーくん

ROKU/え・ぶん 文芸社ビジュアルアート

2007年11月 945円

どんぐりのマーくんは、風にとばされて泣いていたのですが、アリさんたちに助けられて若木に成長していきます。



17号・特集は「食の安全は守れるか」中島紀一、本野一郎、馬場直子など。

18号・特集は「こわれる日本の医療」。色平哲郎、山岡淳一郎など。

## インパクション159

インパクト出版会/編  
インパクト出版会 2007年8月 1260円  
特集は「ラテンアメリカの地殻変動」。反グローバリゼーション、反米、左派政権という形でくぐられるそうした動きの本質や可能性、問題点に迫っている。

「原発」を直撃した中越沖地震 あごら新湯/編 BOC出版 2007年9月 1050円  
「現地で見た柏崎原発の被災状況」(上澤千尋)など

## インパクション 160

インパクト出版会/編 インパクト出版会 2007年11月 1260円  
特集は「ボイコット生活から世界につながる」。対イスラエル・ボイコット、ウインドウズのボイコット、資本の論理をこそボイコット…など

## 〔女性史・歴史〕

### 遊女の社会史 島原・吉原の歴史から植民地「公娼」まで

今西一/著  
有志舎 2007年10月 2730円

日本における「性的奴隷」の歴史を、遊女、遊郭に始まり植民地「公娼」制に至るまで追っている。グローバリ化時代、ますます「性的奴隷」状況は増大しているという。



### ビデの文化史

ロジェ＝アンリ・ゲラン、ジュリア・セルゴ/著 加藤雅郁/訳  
高遠弘美/解説 作品社 2007年9月 2730円



その昔、「ビデ」は宮廷の貴婦人たちがこっそりと私室で愛用した「罪を洗う道具」だった。誰がどう使ったかによって、それは珍重され、文化ともなる。そして現代では、ビデは、トイレに付いた「機能」として位置づけられている。「トイレの文化史」の著者による「ビデの文化史」が翻訳された。

### ある農村少女の戦後日記 語り継ぐ戦争

細田寸海子/著 一草舎 2007年6月 1260円  
太平洋戦争の真只中に、信州坂北の農村で青春時代を生きた著者の日記。昭和17年から敗戦までを取録。戦時下の農村に住んだ、聡明な少女のありのままの記録である。

### 女帝 古代日本裏面史

梅澤恵美子/著 ポプラ社 2007年7月 1680円  
6世紀の推古天皇以来、8代6人の女帝がでた「女帝の時代」がかつてあった。絢爛たる女帝の世紀ではあったが、その一方で、女帝たちはスキャンダルにまみれていた。そこには何があったのか。

### 長崎の女たち 第2集

長崎女性史研究会/編 長崎文獻社 2007年8月 2000円

### 介護の仕事入門 1ランク上の介護力をつけるために

安岡厚子/著  
(財)介護労働安定センター  
2007年8月 1300円

介護職として一步を踏み出す人、現在介護職についている人があるもう一步ステップアップするために。



### 取り戻そう! あなたの年金Q&A

五十嵐芳樹/著 清文社 2007年7月 1050円  
宙に浮いた年金5000万円に当てはまりそうな人は、これを読んでみて!

### 恐くないシングルの老後

吉廣紀代子/著 朝日新聞社 2007年6月 777円  
高齢シングルの老後を取材し、まともな加齢とともに自分自身がどう老化し、若さにかわる価値観を見出せるか。「非婚時代」の著者が自らの老後も含めて考えている。



### 私のがんばらない介護生活

「私のがんばらない介護生活」出版委員会/著  
中央公論新社 2007年9月 1050円

### ジェンダー史学 第3号

ジェンダー史学会 2007年10月 1890円  
ジェンダー史学会の学会誌、第3号。「黒人レイビスト神話」のポリティクス」(兼子歩)など



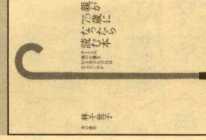
### 『男女同権論』の男 深間内基と自由民権の時代

鈴木しづ子/著  
日本経済評論社 2007年10月 3150円  
明治初期にJ・S・ミルの『男女同権論』を日本で最初に翻訳した深間内基(ふかまうちもとしい)の生涯を綴っている。埋もれた資料を掘りおこし、深間内基生に「男女同権論」がいかに内在化されていたかを探っている。



### 親が75歳になったら読む本 子どもは、親の介護を引き受けなければならないのか

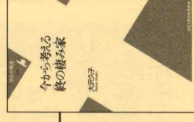
林千世子/著 本の泉社 2007年8月 1470円  
「親に幸せな老後を」と「自分の生活を犠牲にしたくない」という2つの願いの併存が、子どもの本音だと著者。そのためには、いくつか問いかけておく必要がある。著者の介護経験も生きた記述。



読売新聞に3年半掲載された「私のがんばらない介護生活」が本になった。最後まで寄り添える介護とは、ストレスをためない「がんばらない介護」。

### 今から考える終の棲み家

大沢久子/著 平凡社 2007年8月 756円  
自宅で生涯をまとうする、有料老人ホームに入る、グループリビングは、お金は、年金は…。最後を迎えるための準備を今からしておこう。



### 女ひとり定年後を生きて

市川泰子/著 インパクト出版会 2007年11月 1765円  
小田原市で初めての女性管理職となり、定年退職した後カルチャーサロンを主催し、高齢社会をよくする女性の会あしからの代表もつとめる著者の、人生案内の書











ウィメンズブックストアで扱っているミニミニ・研究誌・情報誌の最新情報の抜粋  
「ミニミニ・ミニミニ」全情報をお別刷りしています  
(単発もの)

＜単発もの＞（新着）

■**出産場所の集約化問題を考える—シンポジウム講演録**  
NPO法人お産サポートJAPAN 2006年12月 1000円  
2006年9月に東京で開催されたシンポジウムの講演録。

## ■女性情報を社会資源とするために—報告書—

2006年9月に大阪で開催された女性情報ゼミナールの報告書。

## ■DV支援現場における支援者による被害—二次被害当事者へのインタビューから

西山学苑研究紀要第2号抜刷  
矢野裕子 2007年3月 315円

## ■ やさしく学ぼう女性の権利「第3版」

国際女性の地位協会 2005年5月 630円  
女性差別撤廃条約をやさしく解説した冊子。

## ■女性差別撤廃条約選択議定書活用ガイド

国際女性の地位協会 2007年9月 1575円  
女性差別撤廃条約と選択議定書について詳しく解説。  
配布用資料付き

(三三三) 取扱いは、お問い合わせください。

# HOT FILE

## 『満月 わたしの人生記録帳』

麻鳥澄江 / 著  
教育史料出版会 / 発行  
3990 日

米もいふ



た。月日の頁に10年間の自分の人生観を記していくものです。ただし、市販の空欄だけが延々と続く日記帳とは全体の雰囲気が多々違います。植物のイラスト入りの頁には、この130年間のその日の女たちの行動を記事として載せてあります。女性が初めて成し遂げたことや、女性が起こした裁判、新聞などに発表された女たちの声も反映してあります。

そもそも、私の学校時代の教科書には女性性はめったに載っておらず、女性についての本の著者ほとんど男性でしたから、拍手を送りたい女性のことをほとんど知りませんでした。若き日に「女だ

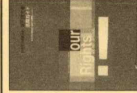
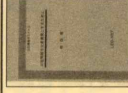
必ずあるはず」とあちこち捜して集めたことを今はなつかしく思い出します。そして、アジア情報など各地各分野の行動記録は、まだまだあるはずで、ここに集めた月日の情報は、当時を思い出す目安にすぎません。今回の10年記録帳『満月』は、1999年までの女たちの行動を振り返りながら、21世紀からの世相や女の歴史は自分で記録するという一冊です。「めぐり」の練習頁もあります。そして、世の中のスケジュールに惑わされずに、自分の年齢で書き込むところが従来の日記帳の枠をこえています。

私自身の連続日記は、途中でやめざるやうに、勝手に反して続けています。数年経ったところに、だんだん面白くなってきました。似たような季節や場面で鏡に映っているような自分に出会いたくない、と頭が働くようになりまりました。ひとりぶんの自分の傾向と対策を考えつくりようになりました。

私は来年60歳になるので、自分たちの世代への想いをこめて、どうしても今この一冊を作りたい。何歳であれ、私たちは広大な「女たちの大河」のしずくでもあります。過去にも横にも女たちが手をつないでいる、そのひとりです。ジョジョ企画で出版している『姉妹たちよ・女の暦』で出会う諸姉からもらう「60代は素敵だよ」の励ましの言葉を、信じております。今回の編集は、もうじき30歳という活気あふれる女性と協労して、実に楽しかったです。

麻鳥澄江 (連絡先: シヨシヨシ企画 電話 047-377-6900 FAX 047-370-5051)

(ウィメンズ・ブックストアゆうでも扱っています)



## 編集長の著者インタビュー

### 農家女性の社会学～農の元気は女から

靄 理恵子 著 コモンズ発行 2940円 2007年10月

朝市や直売所等の運営、農村社会への参画、食と農をつなぐ試みなど、農家女性が展開する実に多様な営みを綿密なフィールドワークをもとに紹介し、地道で確かなフェミニズムの視点から考察している。

博士論文がもたらした250ページのハードカバー本だからといって、構える必要、全くなし。専門用語を使いながらも、平易ですつと頭に入ってくる記述ぶりが嬉しい。フィールドワークの対象者たる農家女性たちへの共感とぶれることのない視

### 著者インタビュー 第27回

『農家女性の社会学』の著者

靄 理恵子さんに聞く



吉備国際大学社会学部准教授

——「嫁」から「女性」へ変化していく農家女性の姿をしかりしたフェミニズムの視点から扱っている本は、他に見当たらないように思うのですが。

靄 : 大学院修士まで日本民俗学を、博士課程では農村社会学を学びました。先行研究から多くを得たことは確かなのですが、民俗学にしろ農村社会学にしろ、農家女性性は「見えない存在」でその存在自体が意識されなかったし、意識されたとしても、性役割を自明のものとした上で研究がなされてきたように思います。そこで、自分の研究上の視点として、フェミニズムの視点をすすえることにしました。民俗学や農村社会学においてこういう傾向が出てきたのはここ15年ほどのことですが、まだまだ確立しているわけではありません。

——：都市に住んで理屈だけで考えていると、農村には農村の女性たちの自立や役割分担の状況、豊かな男女の関係があることが見えにくいのですが、こうしてフィールドワークをもとに展開していただくと、よくわかります。

靄 : フィールドワークは、民俗学や農村社会学の基本なのです。現地に泊まりこみ、手伝い等をしたりしながら、朝市や直

点がもたらした、賜物であろう。

女性たちにとって、「自分の財布を持つこと」「自分も加わること」がどれだけの力になるのかがよくわかる。それと共に、読者は、農家女性たちが知らずに獲得してきた生産と生活を結ぶトータルな能力が、進化するグローバル化への対抗戦略として重要な意味を持つことも知るだろう。

バタバタ感で息がつまりそうな都会の人たちに是非！女性のエンパワメントの真髄と限りない可能性が見えてくる一冊である。

(M)



売所の様子、農家経営や家庭の状況などを観察します。高度成長期を経て、女性たちは急速に「自分の財布」をもつようになりませんが、それに伴って夫や家族との関係や農村社会での立場が変化していきます。

——：しかし、都会と比べて、男女の役割分担そのものに切り込んでいるような動きは、見られないですね。

靄 : 農村では、専業、兼業を問わず、男女がともに仕事をし、家庭生活を営むというのが基本です。農家の女性には本当によく働きます、男性も、優れた生活者であることがほとんどです。だから都市部でいう「性別役割分担の解消」の考え方はそのままであてはまらないでしょう。今後の方向として、農家における役割分担意識の実態や変化、家族農業経営におけるペイドワークの状況、あるいは労働報酬の分配状況などについて現場で把握し、対応策を明らかにしていく必要があります。

——：それにしても、グローバル化の波は農村を直撃していますし、農村女性の姿は、男性も含めてでしようが、ますます変わっていくのでしょうか。

靄 : 21世紀になって、地産地消、スローフード、都市と農家との交流などの様々な動きが、農村女性を発信源として始まりました。規模拡大路線ではなく、豊かな暮らしを続ける方策としてのこれらの取組は、食・農のグローバル化への対抗戦略になると考えています。男性たちもそれに気づき始めています。農家女性は今後どういう方向へ向かうのか。この点を、今後の研究課題として、取り組んでいきたいです。

(聞き手: 森屋裕子)

読んで  
ください！

### 揺らぐ性・変わる医療——ケアとセクシュアリティを読み直す(健康とジェンダーⅣ)

根村直美/編著 明石書店 2007年10月刊 2940円

斉藤正美 (共著者の一人として)

この本は性、ケア、医療の現場でおきている現象を取り上げる。「患者中心医療」は女性の「思いやり」や「気遣い」など「ケア＝女性の視点」が要請されているという。「看護師の自律性と意思決定」(朝倉京子)は、そんな現場でどうしたら他者中心に臨まないでいられるか、という育児や介護に携わる女性共通の課題を考える。「知らないことは可能かー超音波検査における胎児の認知と告知」(菅野摂子)は、3D超音波検査が妊婦雑誌をどう変えたか、妊婦とその家族に何をもたらしたのかを考える。「ジェンダーの揺らぎを扱う医療」(東優子)は、性自認における揺らぎや変動を織り込んで手術の「失敗の自由」を認めるべきではないかと言う。「オタクの従属化と異性愛主義」(田中俊之)は、日本社会がオタクという従属的男性性を創出していくことでジェンダー秩序を維持しているのではないかと問う。興味深いテーマばかり、ぜひ手にとって！



ウィメンズブックス

# WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

## ウィメンズブックスTOP 5 8・9・10月ベストセラーTOP

1 気づいて乗りこえる

長谷川七重+グラループしおん/著  
人情情報を結ぶWEブデュース 1050円

2 おひとりさまの老後

上野千鶴子/著 法研 1470円

3 人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方

牟田静香/著 講談社 840円

4 非正規労働の向かう先

鴨桃代/著 岩波ブックレット 504円

5 子どもの心をしずめる24の方法

エリザベス・クレアリー/著 ミッツ・カタヤマ/絵  
田上時子+本田敏子/訳 築地書館 1680円

## メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録は[info@womens-books.jp](mailto:info@womens-books.jp)までどうぞ

### ■ 'ゆう' だよ

◎ 今号の別刷りでは、定期刊行ミニコミ最新情報に加えて、'ゆう'で扱っている「グッズ」にスポットライトをあててみました。創る人の個性と思いがさまざまな色の花を咲かせています。(カラーでご紹介できないのが残念です)

大阪にお越しの際には、是非ショップにもお立ち寄りください！スタッフ一同、心よりお待ちしております。(勝原博美)



パナリ展「戦争」と「平和」の中で生きた一イスラームの女性たち—アフガニスタンの場合—

11月10日には、宝塚アフガニスタン友好協会の西垣敬子さんに来ていただいた。アフガニスタンの女性たちについて、お話をうかがいました。

(ギャラリー— ゆう HP <http://www.geocities.jp/galleryu1012>)

◎ ギャラリー— ゆうは20人ほどしか入らない小さなスペースですが、アットホームで自由な雰囲気やとりがでる空間です。まだ実現していませんが、著者の方を招いたトークの会などできたいです。ちなみに右の写真は、西垣さんからお借りしたブルカを着てブックスショッップにまで出立した参加者の方です。

(森屋裕子)



レクチャー風景



ブルカを試着した参加者  
ウィメンズブックストアゆうの店頭で

本誌からの無断転載・コピーはお断りします

## 「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズボックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
  - 個人会員 3000円
  - 海外会員・団体会員 3800円

## 女性センター、 女性政策課、研究室、 図書館向けサービス 専門職派遣など

リストアップ、各種配本の迅速手配、  
データ管理、コーディング、  
専門職派遣など

## 原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。  
次号の締め切りは**2008年2月5日**です(発行予定日2008年2月25日)

## リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

### 〈送料〉

個人会員 書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料  
書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円  
海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

## WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

新刊案内 ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃブログ更新中

## ◎ 自費出版承ります。ご相談ください。◎

### 店舗/ウィメンズブックストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F

電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115

E-mail [info@womens-books.jp](mailto:info@womens-books.jp)

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時

土・日：午前11時から午後6時30分

定休日：月曜 ドーンセンター休館日